

高温時における水稻の栽培管理について

宮城県米づくり推進本部
令和7年7月16日

- 県内では6月以降気温の高い状態が続いています。県内の中生品種の出穂期は平年より3日早い7月29日頃となる見込みです。

《今後の管理のポイント》

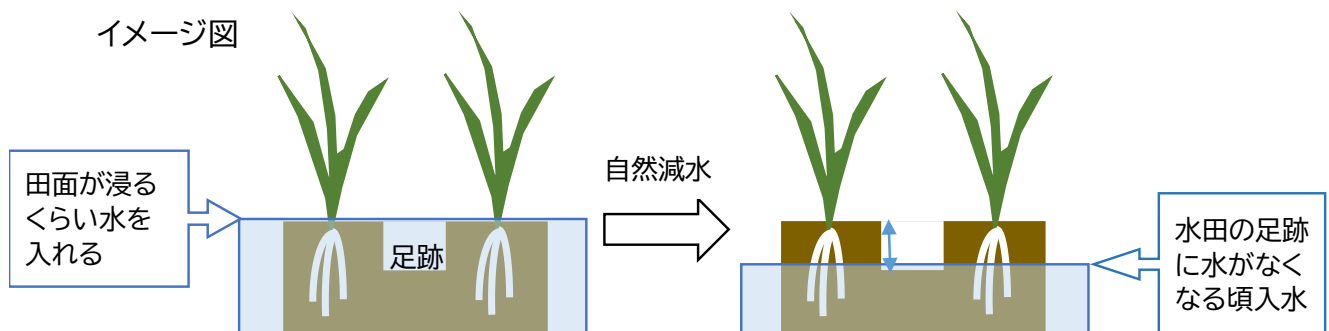
- ① 出穂後30日頃までは、限られた用水で「**飽水管理**」を行い、^{ほうすいかんり}土壌を湿った状態に保ちましょう。「飽水管理」は、登熟期間が高温のとき、玄米の品質向上を図る技術としても有効です。
- ② 登熟期間に高温に遭遇すると、白未熟粒の発生が多くなります。玄米の品質低下を避けるため、葉色が低下しているほ場では、生育量と生育ステージに留意して、追肥を行いましょう。
- ③ **斑点米カメムシ類**について、今年の発生はやや多くなっています。ほ場をよく観察し、適期に防除を実施しましょう。

① 飽水管理について

- ・水田の足跡に水がなくなったら入水し、表土が十分湿ったら止水・自然落水する方法。
- ・間断かんがいより土壌が酸化的に保たれ、根の活性が高まる。
- ・湛水管理に比べると夜間の稲体の温度が下がりやすいため、乳白粒や胴割粒の発生が軽減できる。
- ・用水不足が懸念されるときの水管理としても有効。
- ・落水は出穂後30日以降とし、登熟歩合の向上を図りましょう。

※出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。
飽水管理を徹底し、土壌を湿った状態に保ちましょう。

イメージ図



② 追肥について

- ・葉色は平年より低めに推移しています。
- ・葉色が低下した状態で登熟期間に高温に遭遇すると、白未熟粒の発生が多くなります。
- ・特に減数分裂期の追肥は、登熟の改善に効果が高いことが知られています。
- ・葉色・生育量等に留意し、穂揃期の葉色を維持させるための追肥を行いましょう。

追肥の施用時期と生産要因への影響					
		穂数の増加	粳数の増加	登熟の改善	倒伏 玄米タンパク質の増加
施用時期	幼穂形成期	○	◎		×
	減数分裂期		○	◎	
	穂揃期			○	×



写真 高温条件下で多く発生する白未熟粒（矢印が白濁部分）

③ 斑点米カメムシ類の防除について

- ・今年は本田及び周辺畦畔での斑点米カメムシ類の発生がやや多くなっています。
（令和7年7月2日発行 宮城県病害虫防除所 防除情報第4号）
- ・水田周辺の草刈りは、出穂の10日前までに終わらせましょう。出穂直前の草刈りは、カメムシ類を水田内に追い込むことになり、逆効果です。
- ・斑点米カメムシ類の薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。適期防除に努めましょう。



写真 アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



斑点米カメムシ類による着色粒

（提供：いずれも宮城県病害虫防除所ホームページより）

農薬危害防止運動実施中！（6月1日～8月31日まで）

農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。